



乾杯の発声で今日一番の笑顔がこぼれます

なまり懐かし はまなす会総会。 交流会を開催

平成29年6月18日の午後1時から、霞が関ビル35階の東海大学校友会館（東京都千代田区霞が関）で、第29回野田はまなす会総会およびふるさと交流会が出席者65名のもと、開催されました。

総会では、桜庭昌吾会長が議長となり、平成28年度の事業報告・収支決算、平成29年度の事業計画案・収支予算案が、原案どおり承認されました。

また、第3号議案として、年会費の改正案が審議され、賛成意見も出されて、全会一致で原



村長賞など福引きは毎年、大盛り上がり

案どおり承認。平成30年度から、年会費は3千円になります。会設立当初から29年間、会費2千円で事業を行なってきましたが、諸物価の値上がりなどを背景に会の運営が厳しくなったことが提案理由でした。

会運営費の主なもの、①年2回のはまなす通信の発行、②会報と「広報のだ」の送料、③日帰りレクリエーションへの補助、④交流会での福引きの品代、⑤県人連合会の負担金、⑥通信費や事務費などです。

総会に続き、同会場で、ふるさと交流会が佐藤匡宏初代会長の乾杯により始まりました。

村の報告では、スライド写真を用いて、小田村長から詳細に村の復興状況の説明がありました。涼海の丘ワイナリー、新設

された三陸鉄道『十府ヶ浦海岸駅』などハード面は、だいぶ前進し、新しい街並みになっている様子でした。

村長をはじめ、村の職員の日常的な奮闘ぶりに感激しました。

懇談の途中で、日當都夫会員によるハーモニカとオカリナの演奏もあり、ハーモニカを伴奏に全員で歌うなど、和やかな雰囲気のもと、交流会は盛り上がりしました。

参加者全員に当たる福引きや会長賞、村長賞、議長賞、様似会長賞など特別賞を楽しんでいるうちに、終了の時刻が迫ってきました。

恒例の交流会の締めは会場いっぱいになくなって、「ふるさと」として私達の母校の「野田中学校校歌」を全員で合唱して、会はお開きとなりました。

一年に一度の再会は、なかなか離れがたく、2次会は近くの「さくら水産虎の門店」に55人が集まり、ふるさと交流をさらに深めた、楽しい一日でした。

来年、平成30年は野田はまなす会設立30周年という記念の年になります。いつも参加してくださる方も、しばらく参加されていない方も、来年は、みんな揃って30周年記念をお祝いしたいです。

（副幹事長 志村良子）

ごあいさつ



野田はまなす会
会長 桜庭昌吾

今年の天候は異常でした。春だなど思っていたら、すぐ酷暑の夏、その後関東では、20日余り連続の雨でした。そんななか、皆様にはお元気でお過ごしのこととお察し申し上げます。

さて、6月18日に開催された野田はまなす会総会・交流会には、たくさんの方々のご出席を賜り、ありがとうございました。ふるさと野田村からは小田祐士村長、貳又正人村議会議長をはじめ、事務局の職員にご出席いただき、心から感謝申し上げます。

次第です。

3・11東日本大震災大津波で壊滅的被害を受けてから、はや6年半が経過しました。まだまだ、さまざまな困難がある中で、行政、村議会、村職員一体となつて、確かな足取りで新しい街づくりに向けて前進している様子を見て、大変嬉しく感じております。

6月13日の岩手日報で「土地区画整理」「十府ヶ浦公園」の竣工式の様子が報道されていました。私も7月17日から19日まで野田村に帰省して、街や港、十府ヶ浦公園を歩いて直接復興ぶりを見てきました。18歳まで住み、毎年帰省しては見て来た震災前の古い風景が焼きついてる私には、予想もつかないような広々とした明るい景観になっていました。



津波防災を目的とした十府ヶ浦公園は、遊具があり、スポーツや文化活動をするスペースが十分に広がっています



イベントなどで活用され、多くの人でにぎわいます

道路も広く真つすぐになり、きれいに舗装されて、何軒か建っている家も新しくまぶしいほどでした。新しい道もいくつかできていました。約19畝の広い公園の端から端まで歩

いてみると、夢が広がる空間がありました。

宇部川、泉沢川、明内川など、川もこんなにあったのかとビックリしました。堤防など津波に対する減災の工夫も、いろいろなところで取り込まれていました。新しい保健センターも建設され、津波の時は屋上が避難場所になるとのこと。まさにこれらは、野田村復興のシンボルであり、安全・安心の証でもあります。

この公園をどんなアイデアで人々の憩いの場にするか、知恵の絞りどころだろうと思えます。この広い空間に老若男女が思い思いに集い、楽しむ。音楽・文化・スポーツ・レクリエーション、ワクワクするような企画ができそうです。

保育園や小学生の遠足やオリエンテーリングも楽しそうだし、花壇の園芸もいい。家族で出かけ、街の商店で魚や肉、野菜・お酒を買い、公園の一角にあるバーベキュー場でのんびり楽しむのもいい。

なんとしても村民が憩えて、村の活性化につなげてほしいと願っています。

会員の皆さん、時々野田に帰省して、村の雰囲気直接楽しんで下さい。

野田はまなす会設立 30 周年記念事業のための

協賛金募金のお願い

平成 30 年に、野田はまなす会は設立 30 周年を迎えます。会設立 30 周年記念事業として、①記念祝賀式・祝賀会、②会設立 30 周年記念誌の発刊（300 冊、約 70 万円）、③記念アトラクション、④村への復興支援寄付、⑤野田村の復興状況視察・応援ツアーなどを実施する計画です。その費用の一部として、募金目標額を 50 万円に設定し、会員や関係者の方々にも趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願い申し上げます。振込み先は、下記のとおりですので、よろしくお願いいたします。

なお、募金された方には、記念誌を贈呈し、ご芳名を記念誌に掲載する予定です。掲載を希望しない場合は、事務局または会長へご連絡願います。

【募集期間】11 月 30 日（木）まで

【振込み先】ゆうちょ銀行 大崎支店、加入者 志村良子

◇郵便局からの振込⇒郵便局口座番号 記号 10180 番号 34914881

◇他銀行からの振込⇒郵便局店名 018 普通預金 口座番号 3491488

【備考】

手数料のご負担をお願い致します。

※郵便局の口座をお持ちの方は、ＡＴＭでの手数料は無料です。

友好団体との交流

久慈高校同窓会東京支部
久慈地区高校東京同窓会

「東京から母校へ感謝とエールを送ろう」をテーマに、5月27日、東海大学校友会館で岩手県立久慈高等学校同窓会東京支部同窓生の集いが開催されました。久慈市の遠藤譲一市長、野田村の小田祐士村長、野田はまなす会から桜庭昌吾会長（久慈高校同窓会東京支部第五代会長）等を来賓に、約70名の出席者で盛会となりました。アトラクションでは同窓生で編成した「にわか楽団」の演奏や、卒業生のオペラ歌手が声量豊かに歌い、場を盛り上げていました。

また、6月10日には久慈地区高等学校東京同窓会の集いが神保町の学士会館で開催され、野田はまなす会から、桜庭昌吾会長と久慈士郎幹事長が参加しました。出席者は約60名で、久慈・野田からきた本部役員や先生方と交流を深めていました。久慈地区高等学校東京同窓会は、同窓生がたくさん出席するように久慈東高校同窓会と久慈工業高校同窓会が合同で組織したものです。

野田はまなす会の会員は、二校どちらかの同窓生という会員が多く、二校の同窓生の中に野田村出身者も多くいます。

来年度は、お互いに同窓会と野田はまなす会の両方に参加するように、誘い合って欲しいです。

佐藤匡宏氏が瑞寶双光章を受章



佐藤初代会長を囲んで記念撮影

野田はまなす会初代会長の佐藤匡宏氏は、郵政事業への永年にわたる功績により瑞寶双光章受章の榮譽に浴されました。野田はまなす会役員が中心となって7月30日に東海大学校友会館で、受章を祝う会を開催いたしました。佐藤匡宏氏の受章を心よりお祝い申し上げます。

十府ヶ浦公園

緑化協力募金の標柱



十府ヶ浦公園で最も多くの人が通る中央入口

当会で十府ヶ浦公園緑化協力のため募金を募ったところ、会員の皆さんから63万7千円の募金がありました。



公園の中央入口右側に建てられた標柱

ふるさと野田村の復興と発展を願い、さつそく野田村に全額寄贈し、平成29年3月に桜を植栽していただきました。桜の品種はアーコード（秋桜）としました。計24本です。

植えた場所は十府ヶ浦公園の中央入口で、一番良いところに横一列に植えてあります。そこに、「寄贈 野田はまなす会（在京人会）」と書かれた標柱が建っています。

村に帰省の時は、ぜひ足を運んでみてください。

「設立30周年記念誌」

広告掲載について

会設立30周年記念事業の協賛金募金とは別に、記念誌に広告の掲載を募集します。

掲載を希望する方は、9月末日までに左記の連絡先に、ご連絡下さい。

折り返し、「広告掲載要領」をお送りします。



【連絡先】

会長 桜庭昌吾

090・9002・4356

幹事長 久慈士郎

090・5567・5795

日帰りレクリエーション 参加者募集

500万本の曼珠沙華の群生地

日本一と言われている埼玉県日高市の500万本の曼珠沙華（彼岸花）が群生している巾着田見学を計画しました。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

実施要項

【目的地】埼玉県日高市「巾着田」

【日時】9月24日（日）午前10時集合

【集合場所】西武池袋線「高麗駅」

※会旗を持って駅出口で待っています。

【費用】

食事代、交通費、入園料（300円）は、各自負担です。

【申込】

昼食の手配の関係上、参加する場合は、9月18日（月）までにご連絡ください。

【申し込み先】

幹事長

久慈士郎090・5567・5795

担当幹事（埼玉県）

大沢清子090・2230・9426

坂本 悟090・4841・3612

私

は昭和27年、野田村横町に生まれました。野田中学校を卒業して、地元の高校に合格するも、集団就職で愛知県に来ました。ここで働きながら夜間定時制高校を卒業して、人と接することが好きな私は駐在さんになりたくて愛知県警察官になりました。60歳定年まで勤め、今は交通相談員として勤務して、現在65歳になりました。ふるさと野田村を出てから、40年の来し方を思い起こせば語り尽くせないほどの色々な事がありました。



おもちゃのプレゼントに嬉しそうな笑顔を浮かべる子どもたち

会員の声

私が愛知県警音楽隊勤務の時に、ふるさとの野田小学校吹奏楽団が全国大会出場で名古屋にきました。私の所属する音楽隊のバスで出迎え、児童たちは発表する大会曲を音楽隊の練習場で隊員と一緒に練習したこともありました。

異動後は、3つの警察署で駐在所勤務をし、定年前は愛知県岡崎警察署の駐在所勤務でした。

ふるさと野田村に思いを寄せて



日當郁夫
横町出身・
野田中昭和43年卒

た。その時、あの忘れ得ない3月11日の東日本大震災、野田にいる親の無事や被災状況を知り、親や村のために何かしなくてはならないとの思いが日ごとに強くなりました。

野田村に行こうとしましたが、交通がマヒして行けません。被災40日後、駐在所管内の方々からいただいた義援金や支援物資・子どものおもちゃなどをた

くさん積んで、車で約1100時間、24時間かけてようやく村に着きました。目に飛び込んできたあの悲惨な被災状況は忘れることはできません。

義援金、支援物資は役場へ、おもちゃは保育園へ届けましたが、何故か泣けて仕方がありませんでした。趣味で吹いているハーモニカ、オカリナを使い、村の避難所で演奏しました。それ以来14回、車で帰りました。

愛知県にも野田村を思う温かい人がたくさんいました。

私の駐在所勤務の時に知り合った花火屋の社長は保育園の園児や親たちが笑顔になればと、毎年夏になると花火を届けてくれます。

フォークリフト会社の社長は被災漁協などにフォークリフトを8台提供してくれました。

ほかに、岡崎クエストライオンスクラブの皆さまは野田小学校の児童数名を石垣島へ招待、工務店の社長はヒノキを

100本寄贈し、その木を利用して十府ヶ浦公園に「はたてんぼう台」が建てられました。

毎年野田村を訪れて演奏活動している支援者たちもいます。

防災・減災のため防潮堤も公園もでき、公共施設の建設、個人の住宅も少しずつ建つてふるさと野田村は着実に前へ進んでいると感じました。

私はこれからも皆さんとともに、ふるさと野田村に思いを寄せて支援・応援を続けていきたいと思っています。



米田地区に位置し、海を見渡せるはたてんぼうだい

あとがき

◆3月25日にふるさと米田地区に三陸鉄道北リアス線の新駅「十府ヶ浦海岸駅」が開業しました。その愛称が「はまなす香る砂浜」です。

◆大震災後、三鉄新駅の誕生は野田の「十府ヶ浦海岸駅」が初めてです。米田地区の住民の利便のほかに、十府ヶ浦公園の村内外の利用者が多く集まり、村の活性化に繋がるよう期待したいです。

◆ふるさとを離れて住んでいるとふるさと岩手、野田の嬉しいニュースが待ち遠しいです。

◆高校野球では、岩手県立不来方高校が春の大会に部員10人で21世紀枠で甲子園に出場しました。うまい人を全国から集めるチームが勝ち進む高校野球の中で立派でした。

◆7月、夏の県大会で県立久慈高校は甲子園ベスト8に進んだ盛岡大附属高校に負けはしましたが準優勝でした。よくやったと褒めたいです。

◆平成30年は野田はまなす会の設立30周年記念の年、記念誌を作成中ですので、楽しみにしていってください。